



## 巻 頭 言

所長 衛藤 光明

国水研だより17号の発刊に際してご挨拶申し上げます。水俣病公式確認50周年記念事業の一環として、新しく水俣病慰霊の碑がエコパーク近郊の親水護岸に建立されました。その落成・魂入れの行事が、5月1日(月)の水俣市主催の水俣病犠牲者慰霊式の前日に行われました。これまで水俣メモリアルに納められていた水俣病犠牲者名簿を、新しい慰霊碑に納める道行きの行事が夕刻厳かに執り行われ、当センターからも8名の職員が道行きを務めました。水俣病の被害拡大に関しましては、平成16年10月15日に、原因企業のみならず国・熊本県にも責任があるとの最高裁の判断が下されました。水俣病犠牲者のご冥福を心からお祈り申し上げるとともに、水俣病被害者の全面的救済が一刻も早く実現することを期待いたします。

地球温暖化防止対策として、当センター職員も昨年に引き続きクールビズに徹し、積極的に省エネを推進しています。台風、豪雨、落雷、黄砂等の自然現象による被害の防御は極めて難しいものですが、各人の努力の積み重ねによりきれいな地球を次世代に遺す事も可能です。

当センターも分煙化が進み、喫煙室が設置されましたが、健康の為に禁煙するのが最良です。6月から禁煙希望者はニコチン中毒患者として健康保険が適用されるようになりました。大気汚染防止と受動喫煙被害防止のためにも是非禁煙して欲しいものです。

本年2月11日(土)に水俣市芦北郡医師会との共催で「第7回健康セミナー」を開催いたしました。「これからの季節に気をつけたい病気の話」を主題として、たなか耳鼻科・眼科クリニックの田中文顕院長先生に「花粉症について」、また、熊本市立熊本市民病院の岳中耐夫副院長先生に「鳥(新型)インフルエンザの脅威」という演題で講演して頂きました。多数の聴講者のご参加に感謝いたします。今後、引き続き健康セミナーを開催いたしますので、ご参集下さいますようお願い申し上げます。

水俣病の経験をふまえて、再び悲惨な公害を繰り返してはならないという国内外への情報発信も当センターの使命であり、とりわけ開発途上国などに対しては被害の未然防止の大切さを積極的に伝えていきたいと思っております。各人が健康を守ることと、きれいな環境を維持して、他人に迷惑をかけないでお互いに快適な人生を送りたいものです。

当センターは、これからもこの使命を忠実に推進して参る覚悟です。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

# 研究センターの動き

(平成17年12月～平成18年6月)

- 平成17年12月16日(金)…………… KSEH・Minamata Forum2005(水俣病情報センター)  
 平成18年 2月11日(土)…………… 第7回健康セミナー「これからの季節に気をつけたい病気の話」  
 平成18年 2月20日(月)…………… NIMDフォーラム2006(水俣病情報センター)  
 平成18年 3月 7日(火)…………… 研究企画会議  
 平成18年 4月30日(日)…………… 江田康幸環境副大臣「水俣病慰霊の碑」落成行事出席  
 平成18年 5月 1日(月)…………… 小池百合子環境大臣及び江田康幸環境副大臣水俣病犠牲者慰霊式出席

## ○ 人事異動

### 【退職】

平成18年 3月31日 山内 義雄(総務課 庶務係長)

### 【転出】

平成18年 3月 1日 馬場 清(環境省総合環境政策局環境保健部企画課主査)

平成18年 4月 1日 田中 秀志(環境省自然環境局総務課)

山川 伸也(環境省水・大気環境局総務課)

### 【転入】

平成18年 3月 1日 植田 孝次(国際・総合研究部国際・情報室長)

平成18年 4月 1日 下田 貴之(総務課経理係長)

井上 勉(総務課経理係)

山内 義雄(国際・総合研究部国際・情報室情報係長：再任用)

平成18年 4月15日 永井 克博(国際・総合研究部国際・情報室国際係長)

## 健康セミナー

去る18年2月11日土曜日に「健康セミナー」が開催されました。今回、熊本市立熊本市市民病院副院長 岳中耐夫先生により「鳥(新型)インフルエンザの脅威」、そして、たなか耳鼻科・眼科クリニック院長 田中文顕先生により「花粉症について」の講演がなされました。

一時期、日本でも大変騒がれていた鳥インフルエンザですが、未だインドネシアでは感染拡大が勢いを増しています。今回の講演ではその現状をふまえ、医学的観点からの報告や国・熊本県の対策・計画等についても盛り込まれました。

そして花粉症は、日本でも罹患患者数の増加や、若年化が進んできつつあるアレルギー性疾患です。今回、地域の花粉飛散状況や、最新の治療方法について分かりやすくご講演いただきました。前回の健康セミナーに引き続き、地域の皆様や専門職種の方々等に計90名近く御参加いただきました。有難うございました。

今後、健康セミナーは、「10月 年老いて気をつけたい目の話」「1月 ストレスの話」を予定しております。是非、皆様のご来場をお待ちしております。



# 国立水俣病総合研究センター共同研究実習棟施設概要

**完成日**

平成17年5月31日

**目的**

国立水俣病総合研究センターは、水俣病及び水銀等に関する研究の推進並びに研究者の養成を図るため、国内の研究者を対象とした共同研究、研究協力及び研修を円滑に実施する施設を設置した。



**建物規模**

構造	鉄筋コンクリート造	地上2階建
建築面積	463.06	m <sup>2</sup>
延床面積	894.50	m <sup>2</sup>
最高高さ	10.50	m
太陽光発電	最大出力	5kw以上（太陽電池アレイ）
風力発電	最大出力	450W×2基



**構成**

- 実験室**
- 1F 国内研究者及び研修者向け実験室1が準備されている。実室内には、一般化学実験に必要なドラフトチャンパー（2基）など諸設備が全て完備される。安全面でも配慮され非常用シャワーも設置されている。
  - 2F 所内研究者向け研究施設としての位置づけであり、大きく土壌（底泥）、生物、水大気の3カテゴリ別に、個別の実験室が用意され各室内のクロソコナミネーションを避けるため個別空調設備となっている。



- 試料調整室**
- 高濃度試料調整室及び一般試料調整室が設置されている。特に高濃度試料調整室は汚染が激しいことが予想されるため、二重扉とし入室の際はスリッパ等の履き替えを義務付ける。



- 機器分析室**
- 基本的に1F機器分析室は、所内研究者および所外研究者、研修者との共用設備とする。機器分析室1では、試料中の総水銀分析を主体とする各種分析機器が配備される。機器分析室2では、メチル水銀分析を主体とする機器が配備される。2FにはICP及びICP-MS専用の空調設備を完備した機器分析室を設けた。

- クリーンルーム**
- 前処理室及び本室が設置されている。清浄度は、前処理室が10,000粒子/m<sup>3</sup>、本室は1,000粒子/m<sup>3</sup>である。

- 宿泊室等**
- 数日から数ヶ月にわたる共同研究等を行う者が滞在するための宿泊施設8室及び食堂、洗濯室を整備

## 海外出張報告

### 韓国国立環境研究所と韓国環境保健学会に於ける講演発表

国際・総合研究部、疫学研究部長 坂本 峰至

韓国では最近になって水銀研究が進められてきています。きっかけはUNEP（国連環境計画）が2002年からのMercury Programで、地球規模での水銀排泄量の推定と産業活動に伴う排泄の低下を訴えたことに始まります。当国立水俣病総合研究センターと韓国との交流も徐々に活発化してきており、去る2005年12月には、KSEH・Minamata Forum 2005を韓国環境保健学会（環境学会）、熊本学園大学との共同で、水俣において開催しました。

私は、当センターの衛藤所長とともにソウル市近郊のインチョンにある韓国国立環境研究所（国環研）で、世界環境デーに因んで6月1日に行われた国際年会議において“Mercury as a global pollutant”と題した講演を行いました。日本以外からも台湾、オーストラリア、カナダ等から8名の参加があり活発な討論が行われました（写真1は講演前に行われた記念写真で、前列中央が国環研のYoon所長、後列左から2人目が環境学会のRhim理事長）。国環研は現在5研究部、22部門、6研究センターから成り、274名の職員を抱える、正に韓国における環境研究の中核をなす国立機関です。

翌日、私達は環保学会が主催する国際会議に釜山市へとバスで向かいました。こちらの会議も200人を越す韓国国内参加者に海外からの参加者を交えて、近代的なホテルで盛大に行われました。衛藤所長は「水俣病の病理」、私は「メチル水銀の胎児影響」について招待講演を行いました。この会議には韓国厚生大臣や環境大臣を歴任されたKwon名誉理事長も参加されており、衛藤所長とは発表の間の休息時に、水俣訪問以来約半年振りの再会に話が弾んでいました。

会議の後のレセプションでは、ホテルのレストランを貸しきってのにぎやかな交歓会が催されました。韓国の主催者サイド及び海外からの参加者には、ほぼ半強制的のように歌う機会が司会者によって与えられました。ここでの主役は衛藤所長でした。所長の「能ソング」披露からこのエンターテイメントタイムが始まったからです。現在、日韓の間には政治的にギクシャクしたところもあるようですが、サイエンスや個人の友好に関しては、そのようなことはなく同じアジアの隣人として、知識、友好を深めることが出来たのは大いなる収穫であったと考えます。

衛藤所長は35年前に韓国を訪れておりましたが当時の記憶はあまり無かったようです。と言うより、その間の韓国のあまりの様変わりに記憶を重ね合わせることが出来なかったと推測されます。「仏国寺の記念写真撮影はこの場所が最も好まれます。」とのガイドの指示でカメラを向けた瞬間に記憶が蘇ったと言っておりました（写真2）。



写真1



写真2

## NIMD Forum 2006, Recent Topics of Fetal Methylmercury Exposure and Its Effects

疫学研究部 本多 俊一

平成18年2月20日に平成17年度のNIMDフォーラム-胎児性メチル水銀暴露及びその影響に関する最近の話題-を水俣病情報センターで開催しました。今回の発表者・招待者は、海外から、世界保健機関（WHO）のアイティオ博士、メレディス博士、南デンマーク大学のグランジャン先生、デヴィス先生、ジョセン先生、スカルム先生、フェロー保健機構のワイエ先生、コペンハーゲン大学のブデツ-ジョージェンセン先生、ハーバード公衆衛生大学院のチョイ先生、国内から東北大学の佐藤先生、菅原先生、鈴木先生、及び秋田大学から村田先生であり、そして国水研から坂本先生と私が発表を行いました。

フォーラムにおける発表内容は：

- (1) メチル水銀低濃度暴露研究の世界的権威のグランジャン先生及びその研究グループ：フェロー諸島におけるメチル水銀の胎児性暴露の研究、過去のコホート研究のフォローアップ研究、年齢と神経毒性の関係、胎児期のメチル水銀暴露評価のバイオマーカー、魚介類摂取による母乳由来のメチル水銀神経毒性影響。
- (2) 東北大学の佐藤先生グループ：メチル水銀及びPCBの神経毒性影響、メチル水銀・PCB・ダイオキシンの胎児性暴露に関するコホート研究。
- (3) 秋田大学の村田先生及び国水研：胎児性水俣病における神経機能障害、臍帯及び他のバイオマーカー間の水銀濃度の関係、メチル水銀暴露パターンにおける脳への水銀蓄積及びその影響。

- (4) WHO：国際化学物質安全性計画-環境保健クライテリアにおけるメチル水銀リスク評価。

とメチル水銀低濃度暴露研究のみならず、国際的なメチル水銀暴露評価及びその取り組み等、幅広い視野からの発表でした。特にグランジャン先生及びその研究チームの研究発表は、世界中のメチル水銀暴露影響の研究者が注目しているものであり、我々国水研の研究者にとっても直接グランジャン先生と接し、研究に関する様々な話題をお話することができる良い機会でした。

今回はWHOからアイティオ博士及びメレディス博士が水俣に来られました。このお二方は世界中を飛び回って世界中の健康被害、貧困及び環境汚染の改善に取り組んでいます。世界中の貧しい地域では様々な要因が複雑に絡み合い、多くの環境汚染、それに伴う健康被害が今まさしく拡大しています。我々研究者は単に実験室で行っている科学的な研究にとどまることなく、それをベースとして貧困地域における環境汚染による人体健康影響調査及びその適切な改善法の着手、またそれを未然に防ぐ為の環境啓発活動を行わなければならないと考えさせられました。

また、フォーラムには胎児性水俣病患者支援団体の“ほっとはうず”から患者さんがコーヒーとクッキーを持って来て頂き、「お堅い」フォーラムに「明るい楽しい笑顔」をプレゼントしてくれました。我々発表者も発表の緊張をほぐせたひと時でした。



衛藤所長による開会挨拶

アイティオ博士(左)とグランジャン先生(右)



ほっとはうずの患者さんによるプレゼント

## 新職員紹介

新しく国水研へ配属された職員を紹介いたします。  
今後ともよろしく願いいたします。



### 下田 貴之

公務員生活10年を超えて、初めての関東圏外での生活になりました。自分にとって全く新しい土地で、新しい気持ちで業務に邁進して参ります。皆様にご迷惑をお掛けしないよう頑張る所存でございますので、よろしく願いいたします。



### 井上 勉

4月に埼玉から水俣に着任致しました。初めての独り暮らしをし3ヶ月が経ちましたが、社交性豊かな水俣の方々に触れホームシックにならず楽しく暮らしております。仕事の面では、責任感を持ち業務に励んで参ります。今後とも宜しくお願い致します。

## 健康相談室だより

### その2. セカンド・オピニオン

皆さん、セカンド・オピニオンという言葉に耳にしたことはありませんか。セカンド・オピニオンとは、直訳すれば、第二の意見ということです。具体的には、診断や治療法について主治医以外の医師の意見をいいます。ご自身の診断に納得がいかなかったり、治療において重大な決断をしなければならない場合、他の専門医に相談したいと思うのは当然のことです。セカンド・オピニオンは、日本ではまだ普及していないため「主治医に失礼になるのでは」と思われがちですが、その心配はまったくありません。

医師から説明（インフォーム）を受けても、専門知識もない患者や家族にとっては診断に対して不安を覚えたり、治療法の決定ができなかったりする場合があります。だから知識を持っている人＝専門医に相談し、意見を聞きたいということになるわけです。これは至極当然な過程です。つまり、セカンド・オピニオンは、インフォームド・コンセント（患者

が医師からの病状、診断、治療法などに関する説明を受けて十分理解した後に、自らの価値観や希望にそって決定を行うことをいいます）同様、患者の皆様がよりよい医療を受けるために大事なことです。

水俣病情報センターに設置されている健康相談室では、現在の病状に対して不安がある患者の皆様に対して内科医、看護師、作業療法士のスタッフが相談にあたっています。セカンド・オピニオンでは原則として主治医からの紹介状が必要ですが、無くても気軽に利用していただけたらと思います。ご関心のある方は、水俣病情報センター（TEL：0966-69-2400）か 国立水俣病総合研究センター（TEL：0966-63-3111）まで御連絡ください。

（中村政明）



## 編集後記

「立秋」を過ぎ暦の上では「秋」ですが、私にとってはまだまだ夏“真っ只中”です。夏の風物詩と云えば「高校野球、海水浴、花火、夏祭り…」といった言葉が思い浮かんできます。先日、水俣市商店街の「土曜夜市」に出掛け、「だくま釣り」という文字を見かけました。皆さんは「だくま（方言!?)」という生き物をご存知ですか？「だくま」は川えびで（ザリガニとは違います）、大きいものは初めて見ました（私の田舎は筑後川の畔ですが、「川えび」と呼び、祖母から小さいものを一度しか見せてもらったことはありません）。久しぶりに土曜夜市へ出掛け、昔なつかしい、ほのぼのとした気持ちを感じました。

皆さんの「今年の夏の思い出」はどのようなものでしょうか？

（MN）

編集・発行：環境省 国立水俣病総合研究センター

〒867-0008 熊本県水俣市浜4058-18 TEL 0966-63-3111 FAX 0966-61-1145

ホームページ <http://www.nimd.go.jp/> E-mail [mail@nimd.go.jp](mailto:mail@nimd.go.jp)

発行日：平成18年8月31日

※この用紙は再生紙を使用しています